

キリストのかたち(3)神であり人でもあるお方

コロサイ 1:15-18

イエス・キリストは、いままで誰も語らなかつたような仕方で語り、誰も出来なかつたさまざまな奇蹟をなさいました。それで人々は、イエスを驚きの目を見て、「この人は、こういうことをどこから得たのだろう。この人に与えられた知恵や、その手で行なわれるこのような力あるわざは、いったい何なのだろう」(マルコ 6:2)と語り合いました。イエスが人の罪を赦すのを見て、人々は「罪を赦すことさえするこの人は、いったいだれなのか」(ルカ 7:49)と言って驚きました。イエスの弟子たちも、イエスがガリラヤ湖の嵐を静めた時、驚き、恐れて、「風や湖までが言うことをきくとは、いったいこの方はどなたなのだろうか」(マルコ 4:41)と言っています。「このお方はどういう人なのだろうか。」聖書はこの問いにさまざまな形で答えています。きょうの箇所では、この問いに、イエス・キリストは神の御子であり、すべてのものの上に立つ、第一のお方であると答えています。

イエス・キリストとはどんなお方かという時に今日の題のように神でありながらも人でもあるお方と説明されることがよくあります。それも半分半分ということではなく100パーセント神でありながら100パーセント人でもあるのです。完全に神でないとならば人の罪を赦すことのできる救い主とはなりえません。また完全に人、人間でないとならば偉大な神であっても我々人間とは何のつながりをもたない神となってしまいます。今日はみことばを通して神であり人でもあるキリストとはどういうお方であるのか共に見てゆきたいと思います。きょうの箇所ではイエス・キリストは15節では「すべての造られたものより先に生まれた方」、また、18節では「死者の中から最初に生まれた方」と呼ばれています。実は原語ではどちらも同じ、「長子」(最初に生まれた子)という言葉です。それは長男、長女という意味ではなく「第一の者」「最初の者」という意味で使われています。どのような意味で最初の者と言われているのでしょうか。

1) キリストは創造主である

まず15節に「御子は、見えない神のかたちであり、すべての造られたものより先に生まれた方です」とあります。「すべての造られたものより先に生まれた方」が意味しているのはキリストが造られたものではないお方であること、つまり、御子は「創造主」であることを言っています。続く16節と17節にも、こう書かれています。「なぜなら、天と地にあるすべてのものは、見えるものも見えないものも、王座であれ主権であれ、支配であれ権威であれ、御子にあって造られたからです。万物は御子によって造られ、御子のために造られました。御子は万物に先立って存在し、万物は御子にあって成り立っています。」このみ言葉を読んでみなさんはどのように思われますか? 「ああ、そうですか」と思う人もいるでしょうね。私はここを読んだ時に本当に驚きました。「イエス・キリストは神である」と書かれているのです。昔はここを読んだ時にあまりにも自分の理解力、想像力を超えたことが書かれているように思い、不遜にも「そこまで思い切ったことを書かない方がええのんと違うかな」ということまで思ったりしました。

聖書は、神がすべての物を造られたと教えています。この大宇宙も、地球も、そこに生きるすべての物もです。時々、この宇宙はどれぐらい前に出来たのか? とか進化論のことを言う人は人間の前は、その前はと言ったことを問い詰めたりします。あるいは偶然出来たとか言います。それらのことはどこまで突き詰めたとしても行き着く最後の質問は「ではそれを存在するようにしたのは、あるいは造ったのは誰ですか?」という問いに行きあたります。天使も、人間も神によって造られました。ですから造られたものを被造物と言います。実は、聖書のどこにも、神の御子キリストが「造られた」とは書かれていません。イエスは人となってお生まれになりましたから「生まれた」と言われています。しかし、「造られた」とは一言も言われていないのです。つまり神の御子キリストは造られた物、被造物のひとつではなく、すべての物をお造りになった創造者なのです。どんなものもすべては神様によって造られました。このことはヨハネ 1:3 に、次のように書かれています。「すべてのものは、この方によって造られた。造られたもので、この方によらずにできたものは一つもなかった。」この方とはキリストのことです。

イエス・キリストは神の御子として神と等しいお方つまり、創造者である。これが聖書が教える信仰の出発点です。その意味においてイエス・キリストと私たちとは大きな違いがあります。イエス・キリスト

は神であるからこそ罪を赦すこと、つまり救うことがお出来になります。人間は誰でも罪が入り込んで以来、教えてもらったわけではないのに人の罪を見つけたり、あら探しをすることにおいては長けています。そこで終わらないで悩んだり、苦しんだりします。私たちは罪に気づくこと、多くは他人の罪ですが、それに気づけても罪を赦す力は持っていません。罪を赦す力と権威を持っておられるのはイエス・キリストただお一人なのです。そして私たちが創造主によっていのち与えられ今生かされているということは私の人生に意味と目的があるということです。創造に関しては来週、ご奉仕いただく安藤先生がもっと詳しく教えてくださいますので期待していただきたいと思います。

2) キリストは初穂である

さて、次に、18節を見ましょう。「御子は初めであり、死者の中から最初に生まれた方です。こうして、すべてのことにおいて第一の者となりました」とあって、15節で「先に生まれた方」と訳されていた言葉は、ここでは、「最初に生まれた方」と訳されています。これは、イエスの復活のことを言っています。イエスが復活においても「第一の者」だというのはその通りです。旧約聖書に出てくるエノクやエリヤのように死なないで天に上げられた人はいましたが、イエスが復活されるまでは、誰ひとり復活した者はありませんでした。創世記5章には人類の系図が書かれています。古代の人はみな長生きしたのですが、アダムから始まって、どの人物についても「こうして彼は死んだ」と書かれています。「罪の支払う報酬は死」であって、この死を克服した人、死に勝利して復活を成し遂げた人は誰もいなかったのです。

コリント第一15:20に「しかし、今やキリストは、眠った者の初穂として死者の中からよみがえられました」とあります。この「眠った者の初穂」と、「死者の中から最初に生まれた方」とは同じ意味です。初穂のあとに畑全体の収穫が続くように、イエスの復活のあとに、イエスを信じる者たちの復活が続くのです。つまり、キリストが「死者の中から最初に生まれた方」、「第一の者」と呼ばれているのは、その後、キリストを信じる者たちもまた、「死者の中から生まれた」第二の者、第三の者となって、「第一のお方」であるイエス・キリストに続いて、復活に与るからです。イエスは、私たちをご自分に続く者とするため、「第一のお方」となりました。この意味においてイエス・キリストは100%人です。つまり神は創造主にして永遠なるお方ですから神にとって死ぬことや復活することは意味を成しません。

キリストは私たちのために復活してくださったのです。もちろんその前に十字架の死があります。これは私たちが罪と死から救い出されるように私たちのためにイエス・キリストは十字架にかかって死んでくださったのです。十字架の死と復活はイエス・キリストが罪を犯すこと以外はすべて私たちと同じ人間であられたので意味があるのです。

「イエスは第一のお方つまり創造主にして眠った者の初穂であるお方」現代はこのことが忘れられています。聖書、特にイエス・キリストのことについての話になると誰でも「偉大で素晴らしいお方、心強く優しいお方」といったことを言います。また生きるための指針や手掛かりにする人もいます。それこそ「イエス・キリストが神であるかどうか、復活したかどうかは問題ではない。イエスの教えに従い、イエスの生き方に倣えば、それで良いのだ」とそんな風に考える人だっておられます。私はそれはグライダーで空を飛ぶような人生あるいは信仰生活だと思えます。グライダーは飛び立つまで速力をつけるために車で引っ張ってもらいます。そして空を飛んでゆくわけですが自分の中に動力がないのでやがて地面に落ちてしまいます。確かに聖書には励ましのことば、慰めのことば、いろんなことばがあり、そのことばで元気づけられて歩みを進めます。そこに確かに神様は働いて下さっています。しかし、その前にまずこのことばは世界を、いのちを創造し、保っておられるキリストが言われたことばであることを確認したいと思えます。また信じる者に復活の事実を持って死に勝利して下さり、信じる者に同じ復活の恵みに連なる者とされていることを重ねて覚えたいのです。イエス・キリストは造られた者ではなく創造者です。たんなる教師や指導者ではなく、贖い主です。なによりも、二千年前に墓に葬られたままの過去の人物ではなく、復活され、今、生きて、働いてくださっているお方です。イエスを「第一のお方」とするとは、イエスをそのようなお方として、聖書が教えるとおりに信じ、従うことです。

私たちは今日、使徒信条で「我は聖霊を信ず。聖なる公同の教会、聖徒の交わり、罪の赦し、身体のよみがえり、永遠の命を信ず」と告白しました。聖霊、教会、聖徒の交わり、罪の赦し、身体のよみがえり、永遠の命。これらは、すべて、イエスを「第一のお方」として、信じるときに与えられる恵みです。私たちはこの部分を告白する前に、イエス・キリストについて、こう告白します。「我はその独り子、我らの主、イエス・キリストを信ず。主は聖霊によりてやどり、処女マリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死にて葬られ、陰府にくだり、三日目に死人のうちよりよみがえり、天に昇り、全能の父なる神の右に座したまえり。かしこより来たりて生ける者と死にたる者とを審きたまわん。」このイエス・キリストへの信仰の告白によって、聖霊、教会、聖徒の交わり、罪の赦し、身体のよみがえり、永遠の命という恵みを受け取ることができるのです。イエスは「第一のお方」だからこそ、私たちにこれらの恵みを与えることがおできになります。イエスを「第一のお方」として、信じ、信頼し、このお方からいただく救いの恵み、いのちの恵みに満たされ、それを証ししていく私たちでありたいと思います。